

米国農務省穀物等需給報告(2012年3月9日発表のポイント)

米国農務省は、3月9日(現地時間)、2011/12年度の11回目の世界及び主要国の穀物・大豆に関する需給見通しを発表した。その概要は以下のとおり。

2011/12年度の穀物全体の生産量は消費量を上回り、大豆の生産量は消費量を下回る見込み

1. 世界の穀物全体の需給の概要(見込み)

- ① 生産量: 23億0,309万t(対前年度比 4.5%増)
- ② 消費量: 22億9,884万t(対前年度比 3.0%増)
- ③ 期末在庫量: 4億6,781万t(対前年度比 0.9%増)
期末在庫率: 20.3%(0.5ポイント減)

【主な品目別の動向】

- 小麦: 生産量は、米国で春小麦の作付面積減等から減産となるものの、旧ソ連諸国で前年度の干ばつによる減産から回復、インド、豪州等で史上最高となり、世界全体でも史上最高の見込み。一方、消費量はどうもろこしの代替としての飼料用需要が増加するものの、世界全体では生産量が消費量を上回る見込み。期末在庫率は依然、高水準。
 - ① 生産量: 6億9,402万t(対前年度比 6.5%増)…ロシア、カザフスタン、インド、ウクライナ、中国、カナダ等で増加、米国等で減少
 - ② 消費量: 6億8,393万t(対前年度比 4.5%増)…中国、EU、カザフスタン等で増加
 - ③ 期末在庫量: 2億0,958万t(対前年度比 5.1%増)
期末在庫率: 30.6%(0.1ポイント増)
 - ④ 前月からの主な変更点: 消費量は、中国の食用需要等の増加から上方修正。
- とうもろこし: 生産量は、米国、アルゼンチンでの夏期の高温・乾燥等による減産はあるものの、中国、ウクライナが史上最高で、ブラジルでも夏作の高温・乾燥の影響を冬作の作付増でカバーし史上最高となり、世界全体でも史上最高の見込み。一方、中国の堅調な飼料用需要等から、世界の消費量も増加する見込み。世界の生産量は消費量を下回り、期末在庫率は低水準。米国においても期末在庫率は6.3%と前年度(8.6%)より低下。
 - ① 生産量: 8億6,496万t(対前年度比 4.3%増)…中国、ウクライナ、EU、ブラジル等で増加、エジプト、米国等で減少
 - ② 消費量: 8億6,949万t(対前年度比 3.0%増)…中国、EU、ブラジル等で増加、米国、エジプト等で減少
 - ③ 期末在庫量: 1億2,453万t(対前年度比 3.5%減)
期末在庫率: 14.3%(1.0ポイント減)
 - ④ 前月からの主な変更点: 大きな変更なし。
- 米(精米): 生産量は、中国、インドで史上最高となり、世界全体でも史上最高の見込み。タイの洪水による雨季作の減産分は、乾季作で補完される見込み。中国、インド等で消費量が増加するものの、世界の生産量は消費量を上回る見込み。
 - ① 生産量: 4億6,540万t(対前年度比 2.7%増)…インド、中国等で増加
 - ② 消費量: 4億6,288万t(対前年度比 3.0%増)…インド、中国等で増加
 - ③ 期末在庫量: 1億0,033万t(対前年度比 2.6%増)
期末在庫率: 21.7%(0.1ポイント減)
 - ④ 前月からの主な変更点: 大きな変更なし。

2. 世界の大豆需給の概要(見込み):

生産量は、米国及び南米での高温・乾燥による減産等から前年度より減少し、消費量を下回る見込み。なお、中国の需要は依然、高水準。

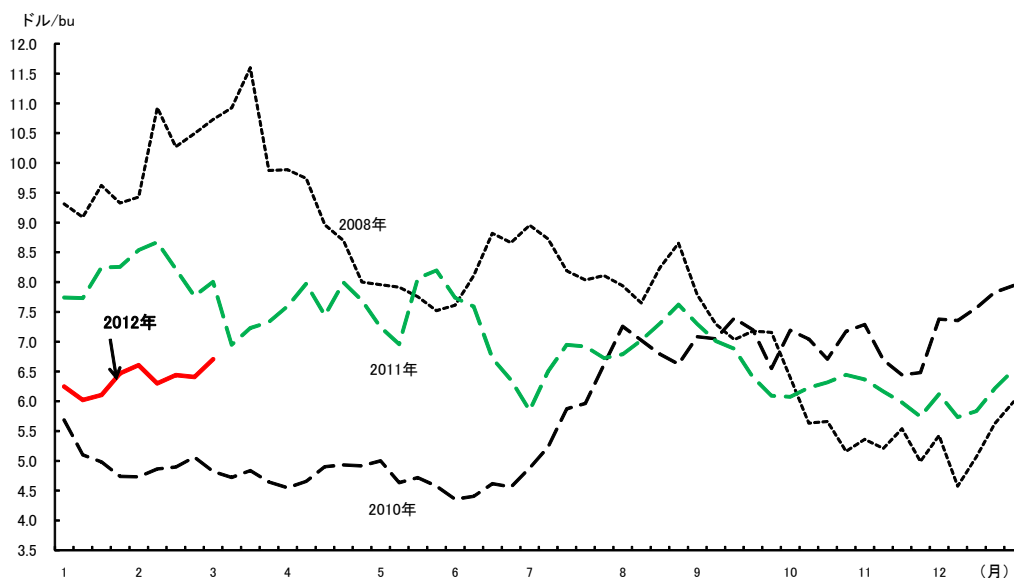
- ① 生産量: 2億4,507万t(対前年度比 7.3%減)…米国、ブラジル、アルゼンチン等で減少
- ② 消費量: 2億5,490万t(対前年度比 1.4%増)…中国等で搾油用需要増加
- ③ 期末在庫量: 5,730万t(対前年度比 16.7%減)
期末在庫率: 22.5%(4.8ポイント減)
- ④ 前月からの主な変更点: 生産量は、ブラジル等で高温・乾燥の影響から下方修正。

世界の穀物の価格動向(2012年)

- 小麦:6.71ドル/bu(前年同時期の価格:8.01ドル/bu)
(価格は、シカゴ商品取引所における3月第1週末の期近価格である。)

2011年1月以降、米国冬小麦の冬枯れ懸念、中東、北アフリカ諸国の輸入需要、中国冬小麦地帯の乾燥懸念等により値を上げたものの、2月以降、需要減退懸念から値を下げた。4月半ばから5月上旬に旧ソ連地域等での概ね良好な作柄等で一時値を下げたものの、3月半ばから5月中旬まで、米国冬小麦の作柄懸念やとうもろこしの高騰に追随して値を上げた。5月下旬以降、ロシア首相の穀物輸出禁止解除の明言及び7月1日からの解除、北半球での収穫の進展等から値を下げた。7月上旬以降、とうもろこしの代替需要としての期待、米国で春小麦の収穫遅延・減産の懸念、冬小麦の次年度作付に向けた土壌水分不足等で上昇したが、9月以降、ロシア産との競合や豪州産の豊作見込み、全米四半期在庫報告で在庫量が事前予想を上回ったこと等から値を下げた。10月以降、米国中西部での冬小麦の作付遅れから一時上昇したが、11月以降、ウクライナの輸出税の撤廃や、旧ソ連地域、南半球からの追加供給で値を下げた。12月中旬以降、底値感や南米の作柄が懸念されるととうもろこしの上昇に追随して値を上げた。

2012年1月以降、世界的に在庫が豊富な中、米国産の輸出需要の低迷等により値を下げたものの、黒海沿岸諸国の輸出量減少の懸念や大豆の上昇につられ、現在6ドル後半で推移。



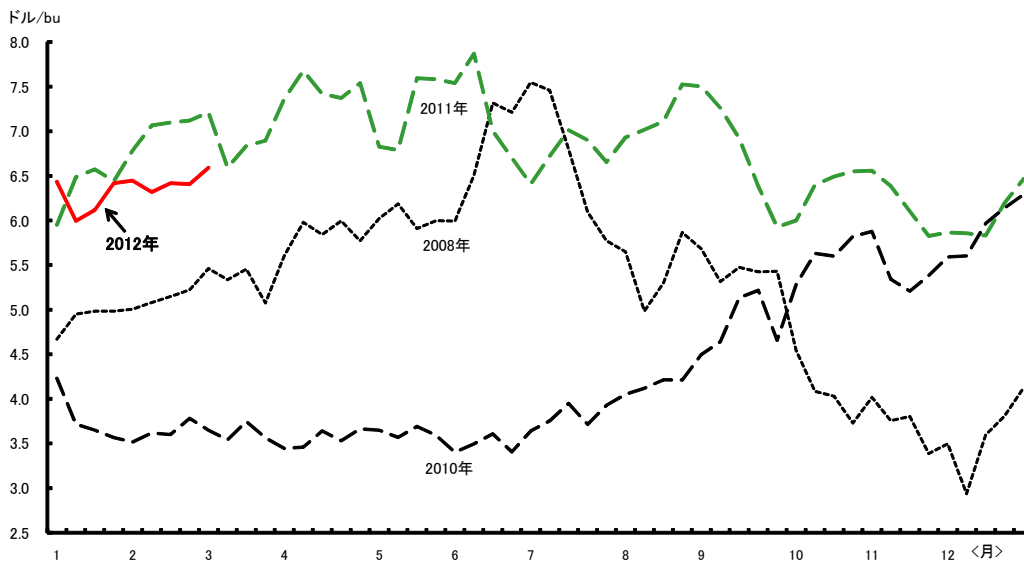
注:シカゴ商品取引所の各週週末の期近価格(セツルメント)である。
グラフは、価格が高騰した2008年と直近2年の価格の推移。

- とうもろこし:6.59ドル/bu(前年同時期の価格:7.21ドル/bu)
(価格は、シカゴ商品取引所における3月第1週末の期近価格である。)

2011年2月以降、原油価格の高騰によるエタノール需要増加の見込み、低水準の在庫見直しから値を上げた。3月上旬には、需要減退懸念から一時下落したが、米国の四半期在庫報告を受け需給の逼迫懸念が強まり、4月11日には史上最高値を更新(7.76ドル/bu)した。4月中旬以降、価格高騰による需要の減退等から値を下げたものの、5月以降、米国の作付け遅れ等から再び値を上げ、6月10日に史上最高値を再度更新した(7.87ドル/bu)。

6月半ば以降、作付けの進捗や、米国作付面積報告での面積や米国四半期在庫報告での在庫量が市場予想を大幅に上回ったこと等から値を下げたものの、7月以降、米国で7月から8月の高温乾燥による受粉や穀粒形成への影響から値を上げた。9月以降、世界的な景気後退懸念や飼料用小麦による代替、全米四半期在庫報告で在庫量が市場予想を上回ったこと等から値を下げた。10月以降、中国の買い付け期待から一時上昇したが、11月以降、輸出税の廃止されたウクライナ等の黒海地域産や南米産との競合により値を下げた。12月中旬以降、南米産地の高温・乾燥天候による作柄懸念により値を上げた。

2012年1月以降、米国需給報告で米国の生産量が予想を上回ったこと等から一旦値を下げたものの、南米の作柄が改善されないこと等から、現在6ドル/bu半ばで推移。



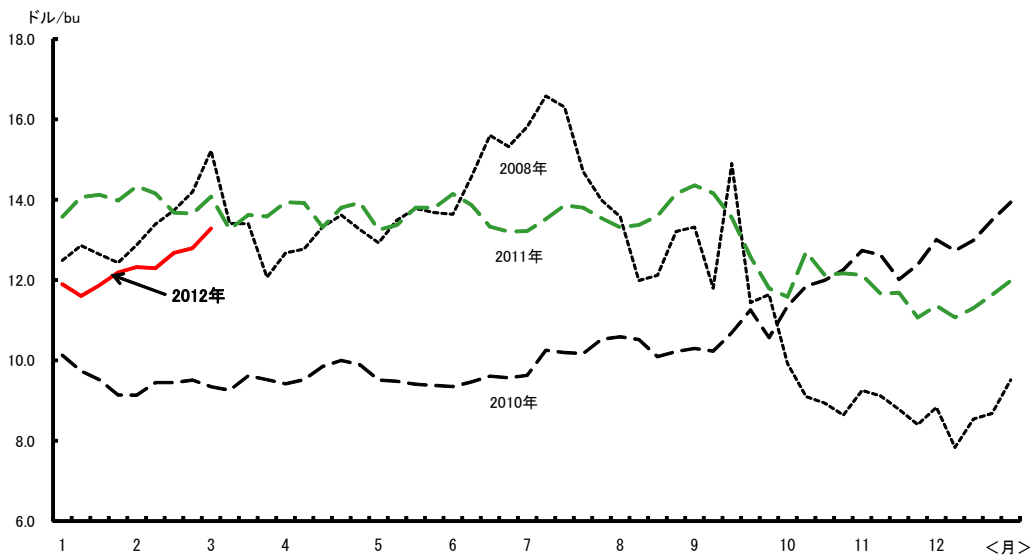
注:シカゴ商品取引所の各週週末の期近価格(セツルメント)である。
グラフは、価格が高騰した2008年と直近2年の価格の推移

● 大豆:13.28ドル/bu(前年同時期の価格:14.08ドル/bu)

(価格は、シカゴ商品取引所における3月第1週末の期近価格である。)

2011年は、2月以降のブラジル等での豊作見込みや、需要減退懸念、5月の米国での低温多雨による作付遅れ等の変動要因があったものの、価格は概ね横ばいを続けた。8月以降、米国で土壌水分不足による低単収見込みから値を上げたが、9月以降、世界的な景気後退懸念や南米の豊富な供給力、全米四半期在庫報告で在庫量が前年同期を上回ったことから値を下げた。10月に下げ過ぎ感から一時上昇したが、11月に南米の順調な作付け等から値を下げた。12月中旬以降、南米産地の高温・乾燥天候から値を上げた。、現在11ドル/bu後半で推移。

2012年1月以降、南米の降雨予報による作柄改善期待から一旦値を下げたものの、南米産の作柄不安や予想を上回る中国向け輸出成約等による米国輸出需要の復調等から値を上げ、現在13ドル/bu前半で推移。

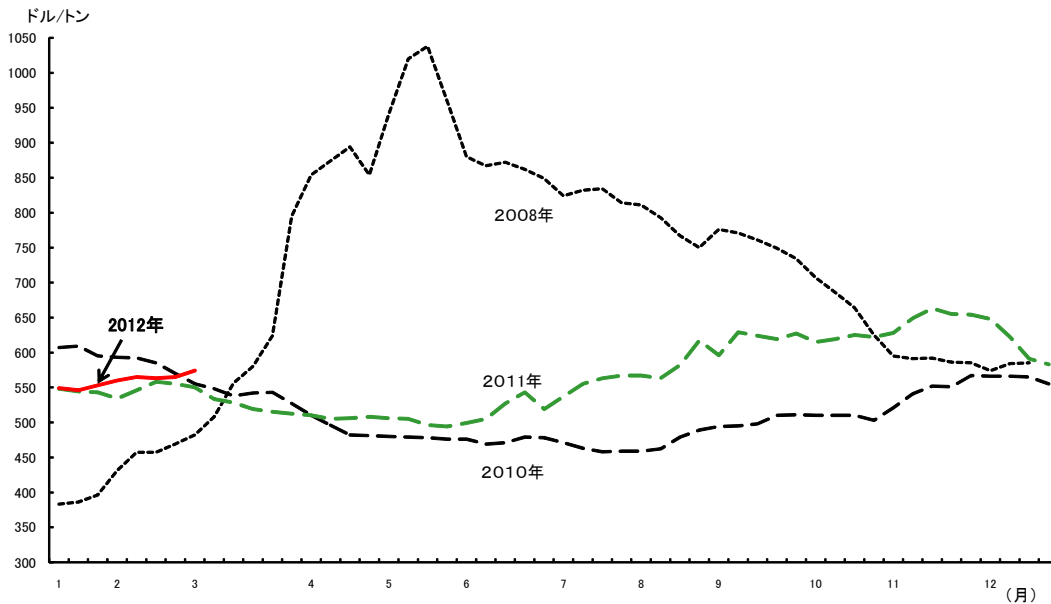


注:シカゴ商品取引所の各週週末の期近価格(セツルメント)である。
グラフは、価格が高騰した2008年と直近2年の価格の推移。

● 米:574ドル/トン(前年同時期の価格:533ドル/トン)7日の価格を入力予定

(価格は、タイ国家貿易取引委員会における3月7日(第1水曜日)の価格が未公表のため2月29日(第5水曜日)のFOB価格である。)

2011年1月以降、タイ、ベトナムでの収穫による供給量の増加や新たな輸入需要が見込めないこと等から値を下げた。6月以降、タイで担保融資制度(実質的な国の買上げ制度)が再導入されるとの見通し(10月7日再導入)から値を上げたものの、11月中旬以降、輸出を再開した安価なインド産等との競合等により値を下げ、現在500ドル/トン後半で推移。



(注)タイ国家貿易取引委員会、うるち精米100%2等のFOB価格(各週水曜日)
 グラフは、価格が高騰した2008年と直近2年の価格推移。

※3月第一水曜日の価格は、タイ国家貿易取引員会の価格が未公表のため、2月29日(水)の価格。

(参考2)

1 為替レート(対ドル円相場)

単位:円/ドル

15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年1月	2月
113.15	107.49	113.26	116.89	114.35	100.64	92.85	85.71	82.63	82.53
3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
81.79	83.35	81.23	80.51	79.47	77.22	76.84	76.77	77.54	77.85
24年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
76.97	78.45								

注: 東京市場銀行間取引、直物相場終値平均(日本経済新聞)

2 海上運賃(フレート)

単位:ドル/トン

15年	16年	17年	18年	19年	20年	21年	22年度	23年1月	2月
35.14	58.99	49.49	41.59	85.22	94.68	51.29	61.77	51.02	50.43
3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
55.95	52.43	51.84	52.95	51.94	51.09	52.19	56.16	55.64	54.96
24年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
50.24	45.90								

注: 米国ガルフー日本間(穀物、パナマックス級; World Maritime Analysis Weekly Report)

19年4月よりパナマックス級のサイズ変更(65,000DWT→72,000DWT)

24年2月の数値は、24年3月9日現在の暫定値

3 原油価格(WTI: 米国ウエスト・テキサス・インターミディエート)

単位:ドル/バレル

15年	16年	17年	18年	19年	20年	21年	22年度	23年1月	2月
31.04	41.40	56.56	66.21	72.34	99.65	61.80	79.53	89.58	89.74
3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
102.98	110.04	101.36	96.29	97.34	86.34	85.61	86.43	97.16	98.58
24年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
100.32	101.32								

注: 内閣府「海外経済データ(平成23年2月)」

24年2月の原油価格(WTI)は「U.S. Energy Information Administration」の週別価格の平均値。